

1 牛母子免疫型ワクチンを活用した熱処理初乳による 子牛の生産性向上の効果

2 丹後家畜保健衛生所

3 ○井上 巖夫 坂田 貴洋 岩本 尚史

4 【はじめに】和牛繁殖農家において、生産した子牛を健康に育成し、せり市に出荷するた
5 めには、良質な初乳を十分に給与することが不可欠である。当所ではモデル農家を設定
6 し、子牛の生産性向上と牛疾病の経乳感染防止を目的とした「熱処理初乳バンク」の取組
7 みについて平成 24 年度に報告した。取組み開始から 10 年が経過し、その後の状況につい
8 て調査したので、概要を報告する。

9 【方法】一酪農家のホルスタイン種母牛に 2 種類の母子免疫型ワクチン(下痢 5 種混合不
10 活化、呼吸器病 6 種混合)を分娩前に接種した。接種牛の分娩後 1~4 回目の初乳を回収し
11 て比重を測定し、パステライザーで 60℃30 分間加熱後に凍結保存した。この初乳を和
12 牛農家の黒毛和種子牛に生後 6 日間給与した。前回の報告では、凍結初乳を給与した子牛
13 において、新生子牛から母子免疫型ワクチンの移行抗体を確認している。

14 【結果】令和 2 年度は加熱処理初乳を 26 回処理、210 リットル生産。180 リットルを和牛
15 農家へ供給した。出荷子牛 14 頭の日齢体重(平均 1.08kg/日)と kg 単価(平均 1,960 円
16 /kg)は取組み前比で改善を維持しており、平成 28 年度から令和 2 年度までに診療した子
17 牛 26 頭の診療回数(平均 3.2 回/頭)と一頭あたり治療費(平均 8,135 円/頭)も取組み前
18 比で低い水準を維持していた。またこの間、別の農家が牛伝染性リンパ腫等の疾病予防を
19 目的とした人工哺乳に取り組むなど、波及効果が確認された。